

あけましておめでとーっございます

皆さま、お健やかに新年をお迎えのことと存じます。

昨年は、九州北部豪雨など自然の力の脅威を感じる出来事が重なり、安心して生活できることの有り難さを痛感いたしました。被災された方々に心からお見舞い申し上げますと、人々が力を合わせて助け合っていくことがどんなに大切なことであるかをあらためて考えさせられました。

私たちは、孤独ではありますが、決して孤立しているわけではありません。他人を思いやることによって、人の温もりの中で癒され、優しさの中で勇気づけられるのだと思います。

新しい年を迎え、命の大切さと尊さをかみしめたいと思います。

そして、皆さまとともに、この街が思いやりと優しさで満たされるように精一杯努めてまいります。

最後に、皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

平成三十年 元旦

直方市長 壬生 達明

掛軸：阿部王樹 「河豚の図」

直方谷尾美術館所蔵

撮影：直方歳時館



老人クラブ育成功労者等

厚生労働大臣表彰を受賞

12月12日、元直方市老人クラブ連合会会長千々和エミ子さん（86）が、厚生労働大臣表彰受賞報告に訪れました。千々和さんは平成24年度から27年度の4年間、直方市老人クラブ連合会会長を務め、老人クラブの発展・向上に大きく貢献してきました。その功績が認められての受賞となりました。千々和さんは県内で2人目となる女性の会長でした。「私がこのような活動に携わり始めた頃は、今ほど女性の活躍が進んでいなかった。最初は大変でしたが、何とか地域に溶け込むよう努力してきました。皆さんの協力もあり、何とか活動を軌道に乗せることができました。人の絆が何よりも大事だと思います」と自身の活動を振り返りました。市長は「本当によく頑張りましたね。長い間貢献していただき、ありがとうございます」と感謝の意を伝えました。

まだまだ若々しい表情

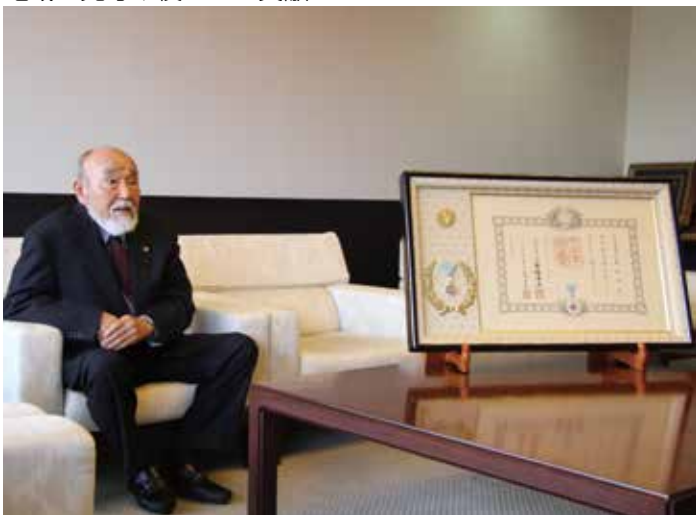


地域の福祉に貢献

篠原照行さんが瑞宝双光章を受章

12月12日、元民生・児童委員の篠原照行さん（82）が、瑞宝双光章を受章し、報告に訪れました。篠原さんは36年の長きにわたり、民生委員や児童委員として地域住民の見守りを続け、地域福祉に貢献した功績が認められ、瑞宝双光章を受章しました。篠原さんは「私自身がいただいたものとは思っていません。行政や民生委員協議会等、ご協力いただいた皆さんのおかげです」と感想を語りました。市長は「これまでの努力が目に見える形で現れましたね。本当にお疲れ様でした」とその功績をたたえ、篠原さんは「本当にそのとおりです。賞状や勲章を見て実感がわきました」と振り返りました。

地域の見守り役として貢献



保護司として活躍

石田一人さんが瑞宝双光章を受章

12月15日、保護司の石田一人さん（70）が訪れ、瑞宝双光章の受章を報告しました。石田さんは32年もの間保護司として活動し、現在は直方保護区保護司会会長を務めています。犯罪や非行をした人の更生に無償で尽力してきた長年の功績が認められ、今回の受章に至りました。石田さんは「今回、はからずも瑞宝双光章をいただくことができました。32年やってこれたと思うと感慨深い」と振り返りました。石田さんは『社会を明るくする運動』の立ち上げにも携わっていて、より良い社会づくりに尽力しています。「これまで縁のなかった関係機関とも連携することができている。この運動を市長と一緒に進めていくことができて嬉しい」と語りました。

明るいまちづくりを目指して

